

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：JA 福岡中央会担い手サポートセンター営農振興担当)
(公 印 省 略)

営農情報 4

麦類の中間管理技術対策

11 月中旬以降、好天に恵まれ、播種作業は順調に進んだ。11 月中下旬播きでは、適度な土壌水分であったことから、出芽・苗立ちが良好であった。また、出芽後の生育も概ね平年並みと順調に進んでいる。

向こう 1 か月の季節予報（福岡管区气象台発表、1 月 7 日～2 月 6 日の天候見通し）では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いと予想されている。

麦の安定生産に取り組み、継続的な契約数量の確保を図っていくため、気象情報や現場条件を確認しながら、下記の技術対策を確実に実施する。

技術対策

(1) 排水対策

麦の健全な生育のためには、排水対策が不可欠である。ほ場に水が溜まらないよう排水溝の溝さらえを行い、排水路を整備して地表水を排水する。ほ場が乾燥した時点で、土入れを兼ねて作溝する。

(2) 土入れ・踏圧（麦踏み）

土壌が乾燥した時点で、速やかに土入れ・踏圧を実施する。

踏圧は、倒伏防止、早期茎立ち抑制のため、分けつ始期から節間伸長開始期前（踏圧の晩限：草丈 20～25cm 程度）までに 3～4 回実施する。

土入れは、倒伏防止や雑草防除の効果が高いため、本葉 3～4 枚頃から 3 月上旬までに 2～3 回実施する。

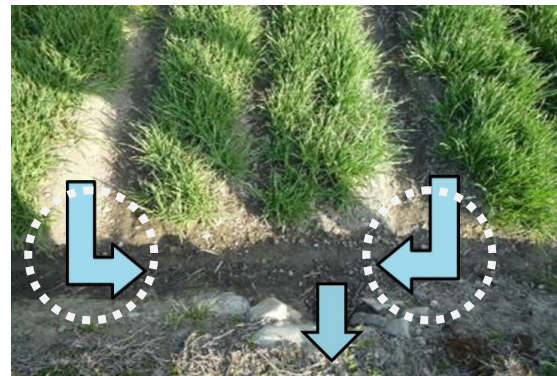
(3) 雑草防除

雑草の草種や発生状況を観察し、選択性茎葉処理除草剤（ハーモニー DF など）を適期に処理する。除草剤は普通作雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(4) 追肥

1 回目の追肥（分けつ肥）は、小麦・食料用大麦・裸麦では 1 月下旬に基準量を施用し、ビール大麦は 1 月下旬～2 月中旬に基準量を施用する。追肥に緩効性肥料を用いる場合も 1 月下旬に施用するが、**施肥後に土入れを実施して確実に覆土を行う。**

2 回目の追肥（穂肥）は、食料用大麦・裸麦では 2 月下旬、小麦では 3 月上旬に基準量を施用する。なお、葉色が低下した場合は、2 回目の追肥を早める。



落水口

図 排水路の整備

※溝と落水口をつなぎ、地表水を排水

以上